

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成27年3月12日 (2015.3.12)

【公開番号】特開2013-100446(P2013-100446A)

【公開日】平成25年5月23日 (2013.5.23)

【年通号数】公開・登録公報2013-026

【出願番号】特願2012-87463(P2012-87463)

【国際特許分類】

C 1 0 M 173/02 (2006.01)

C 1 0 M 137/04 (2006.01)

C 1 0 M 129/42 (2006.01)

C 1 0 M 105/58 (2006.01)

C 1 0 M 107/44 (2006.01)

C 1 0 N 30/06 (2006.01)

C 1 0 N 30/18 (2006.01)

C 1 0 N 40/22 (2006.01)

【 F I 】

C 1 0 M 173/02

C 1 0 M 137/04

C 1 0 M 129/42

C 1 0 M 105/58

C 1 0 M 107/44

C 1 0 N 30:06

C 1 0 N 30:18

C 1 0 N 40:22

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月22日 (2015.1.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 3 】

[ 実施例 1 9 ~ 2 9、比較例 1 1 ~ 1 8 ]

表 4 ~ 表 5 に示す配合比となるように、使用する原料の種類および配合量を変更した以外は実施例 1 8 と同様にして、実施例 1 9 ~ 2 9、比較例 1 1 ~ 1 8 の水溶性加工液を調製した。

得られた水溶性加工液について、上記分離・回収試験を行い、切削屑の分離効率（％）、上層の回収率（％）、回収した上層中の切削屑含有率（％）を求めた。結果を表 4 ~ 表 5 に示す。

なお、比較例 1 1 ~ 1 8 については、2 5 で 1 時間放置した時点で明確な 2 層には分離しなかったため、沈殿層と見られる部分を下層と見なして上層の回収を行った。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 4 】

表 4 ~ 表 5 の結果に示すとおり、実施例 1 8 ~ 2 9 の水溶性加工液は、切削屑の分離効率が高く、回収した上層中の切削屑含有率が低く、水溶性加工液の回収効率に優れていた。

一方、比較例 1 1 ~ 1 8 の水溶性加工液は、分離しないために沈殿層と見られる部分が少なく、上層の回収率は高かったが、切削屑の分離効率が非常に悪く、回収した上層中に切削屑が大量に残存していた。